

大学を拠点とした Holiday Card Exchange プロジェクト

短大生ファシリテーターと小学生との国際協働学習

栗田 智子 (JEARN Tokyo Youth Project)

Youth Project として、実践女子大学・実践女子大学短期大学部と連携し、小・中学生を対象とした Holiday Card Exchange プロジェクトのワークショップを行った。アメリカ、ロシア、ベラルーシ、ポーランド、モルドバ、台湾の6カ国8校と手作りのホリデーカードを交換し合い、小・中学生は、世界の文化の多様性と異文化コミュニケーションを体験した。大学生は、ワークショップの企画運営と小・中学生のプロジェクトのファシリテーターを体験することにより、国際的視野とコミュニケーションスキルの成長が見られた。

国際協働学習 プロジェクト学習 異文化理解 大学 NPO 連携 ホリデーカード

1 はじめに

Holiday Card Exchange プロジェクトとは、世界の子どもたちがホリデーカードを書き、互いに交換し合うグローバルプロジェクトで、このプロジェクトを通し、日本の文化や世界の文化の多様性を学ぶことができる。2016年度から、実践女子大学・実践女子大学短期大学部教育プロジェクトと連携し、短大生が、ファシリテーターとして、このグローバルプロジェクトに参加し、小・中学生向けワークショップの企画と運営に参加している。

2 目的

- (1) 自国と他国の文化を相互に学び、異文化コミュニケーションへの興味、国際的視野を育てること。
- (2) 大学生が、国際協働学習のワークショップの企画運営を通じて、国際的視野を養い、協働によるコミュニケーションスキルの向上をはかることである。

3 方法

- (1) ワークショップ企画：
「世界のお友達とホリデーカードを交換しよう！～Holiday Card Exchange Project 2018」
- (2) 企画・運営：実践女子大学

学生・短期大学部学生 22名

学生たちはワークショップの準備を通してカード交換国への知識と関心を深め、それを子ども達に伝える方法を考案する。ワークショップ当日は子ども達へのファシリテーションに加えて保護者や付き添い者への対応も行う。

3) 活動期間：2018年9月から1月まで

4 活動内容

(1) 全体の活動内容

- 9月 活動開始・チーム分け・活動目標と計画の策定
- 10月 文化祭に向けた準備・イベント申込者への事前学修教材作成
- 11月 ワークショップ準備・クイズ作成・ワークショップでのファシリテーション
- 12月 海外から届いたカードの翻訳とポスター作成
- 1月 イベント準備・ワークショップでのファシリテーション

(2) ワークショップの内容

- 1) 第1回：2018年11月17日(土)

参加者 小学生9名

- ① パートナー校の国についての事前学修教材に関連したクイズに答えながら、子どもたちは、パートナー校の6カ国を確認する。

- ② パートナー校から届いたビデオレター（自己紹介、学校紹介）を鑑賞。
- ③ 日本から送るビデオレターの撮影。お正月に関する物を一人1点持ち寄り、それを英語で紹介する。「お正月」の歌を合唱。その様子を大学生が撮影し、後日ビデオレターに編集しパートナー校にメールで送付。
- ④ 海外に向け、ホリデーカード（年賀状）を自由に描く。後日学生が海外に郵送する。

2) 第2回：2019年1月26日（土）
参加者 小学生4名

- ① 海外のパートナー校から届いたホリデーカードを鑑賞する。事前に大学生が作成したホリデーカードの翻訳と現物のカードを見ながら、国ごとに気づいたことをアークシートに記入する。
- ② グループで、気づいたことを共有し興味を持ったことをタブレットで調べる。グループで気づいたことや調べてわかったことを模造紙にまとめ発表する。



図1 ワークショップの様子

5 成果と課題

(1) 成果

プロジェクト学習のファシリテーターとして、昨年以上に学生が主体的に工夫し、取り組んだ。小学生も自ら問いを持ち、タブレットで調べる姿が見られた。ホリデーカードの交換だけでなく、ビデオレターの交換も早い段階でできた。子どもたちは英語以外の言葉にも興味を示し、パートナー校の母国語を書いて送った。それがパートナー校にとっても喜ばれた。

学生の活動内容に沿ってループリック調査における評価項目を設定し、調査を実施した。結果(実践女子大学短期大学部 大塚みさ教授まとめ)は、【国際的視野-1 日本の文化への理解と関心を深め世界へ発信する】【同-2 カード交換国への知識と理解を深め、子ども達に伝える】の伸長度がともに+1.33と最も高く、【行動力-1 目標を設定し、計画及び企画を立案実行できる】【同-2 課題を発見し、問題解決につなげる】がそれに続く。

表1 ループリック調査結果(大塚教授)

項目	事前 (5月)	事後 (1月)	レベル差 (後-前)	レベル1	レベル2	レベル3
【国際的視野-1】日本文化への理解と関心を深め、世界に発信する	2.19	3.31	1.33	2.19	3.31	
【国際的視野-2】カード交換相手国への知識と理解を深め、子ども達に伝える	2.05	3.35	1.33	2.05	3.35	
【協働カー-1】メンバー間でのコミュニケーション	2.81	3.24	0.50	2.81	3.24	
【協働カー-2】来場者とのコミュニケーション	2.43	2.94	0.53	2.43	2.94	
【行動力-1】目標を設定し、計画及び企画を立案・実行できる	2.24	3.29	1.13	2.24	3.29	
【行動力-2】課題を発見し、問題解決につなげる	2.00	3.00	1.06	2.00	3.00	

事後の学生の自由記述の感想では、「本国について考え、知識を高めることで、海外への視点も変えることができた。」「ネットで国旗の意味などを調べたり、子どもたちに伝わりやすいように簡単なクイズを考えて工夫を凝らしたりして完成させることができた。」「外国について調べたり、理解を深めたりしようとした。また仲間と話し合っってコミュニケーション力もつけることができた。」「など主体的、意識的に活動した結果自信をつけたように思われる。

小学生の感想は、第1回ワークショップでは「いろいろな国の新年の挨拶の書き方を知れた。」「とにかく楽しかった。」「作るのが大変だったけどうまくつくれた。」、第2回ワークショップでは「5か国との交流で、知らないことがたくさんあった。その国の良さが知れてよかった。」「いろいろな国の食べ物や、過ごし方が知れてよかった。」「まとめるのが楽しかった。自分の知らないことがたくさんあった」であった。今まで知らなかった国の言葉や生活への関心が深まったようである。

(2) 課題

今年は、土曜日開催と風邪の流行により、小・中学生の参加が少なかった。より多くの子

どもたちが、2回通しのワークショップに両日参加できるよう、日程や募集方法を工夫したい。